

1. 今後の強化活動における目指す姿と目標設定について

(ア) 世界の強豪国との差が広がる中、我が国のローイングコミュニティは強化活動において何を目指して（目指す姿）取り組むのか。

目指す姿

- ・スポーツの価値を追求しインテグリティが保たれている活動及び選手の集合体
- ・国際大会を通じて取り組むプロセスで共感が得られるような集団

*

1. 今後の強化活動における目指す姿と目標設定について

(イ) 上記の目指す姿を実現するため、2028年ロサンゼルス大会ではどこに目標を定め、何の種目を強化するか。また各種目の優先順位をどう考えるか。

●オリンピック競技（クラシック・コースタル）

<LA>

8位入賞（5位入賞）

～2026年 重点強化 M1x、M2-、W4-、W1x

2027年～ 前年世界選手権で確定

<ブリスベン>

メダル獲得

2027年～ 重点強化 M1x、M2x、M4-、W4-、W2x、W1x

～2030年 2029年の世界選手権で確定。

2031年～ 前年世界選手権で確定

●パラリンピック競技（パラローイング）

わからない

1. 今後の強化活動における目指す姿と目標設定について

(ウ) 設定した目標を踏まえ、強化活動を担うコーチ並びにマネジメント体制をどう考えるか。また体制整備において、優先すべきことや今後の課題についてどのように考えるか

体制強化は必須。

ヘッドコーチ 10月から

HPAD、タレント発掘・育成担当、各マネジメント・コーチの補充。

医科学体制の補強、

コースタル委員会とも強化と一体で取り組めるようにする。

理由：所属団体、選手が混乱しないよう

大学連携、社会人団体との連携も強化。

強化本部内、他委員会とも連携

2. 選手の発掘・育成・強化の計画について

(ア) 2024強化総括では、行き過ぎた個の重視による弊害について指摘がなされたが、JARA の目指す姿や重点種目の特性を踏まえ、日本代表クルーの育成及び選考についてどのように考えるか。

個の選考は必要。

継続強化を活用しクルートレーニングを増加。

逆に個で評価しないと過去の選考の経緯もあるのでは？

総括や選手からコーチの主観という意見もあったがローイングでは危ういと感じる。

SBS はそういう意味でも公平・公正に選考が行われている。

2. 選手の発掘・育成・強化の計画について

(イ) オリンピック競技では、ジュニア、U23、シニアの各カテゴリーのシームレスな育成・強化が不可欠である。ローイングにおける基本的な能力（漕力）を向上させるための育成プログラムはどうあるべきか。

① 我が国の現状と課題を踏まえたトレーニング・プログラムの改善・普及

現在のトレーニングプログラムの徹底とシニア期における個別トレーニングでのさらなるステップアップが必要。ジュニア期からのハードワークやボリュームを求めすぎることはバーンアウトで競技者の選手活動継続にも影響する。

2. 選手の発掘・育成・強化の計画について

(イ) オリンピック競技では、ジュニア、U23、シニアの各カテゴリーのシームレスな育成・強化が不可欠である。ローイングにおける基本的な能力（漕力）を向上させるための育成プログラムはどうあるべきか。

② パフォーマンスの最大化、アッパーリミットの引き上げに向けた施策

関係する専門化のサポートを得たい。

チーム力もあるが選手自身も成長しないといけない。

U23 期の課題解決を行いたい。

2. 選手の発掘・育成・強化の計画について

(ウ) パラリンピック競技に関しては、アスリートの発掘が最も重要な課題となるが、既存プログラム(J-STAR)に加え、都道府県協会や他の競技団体との連携の在り方をどう考えるか。

オリも同様。

都道府県や所属団体の協力度合いはいろいろ。指導者の方向性も様々。
安心して任せれる指導者はすくない。高体連などは安心して任せられる。

3. 選手強化に必要な環境整備について

(ア) ジュニア、U23、シニアの各カテゴリーのシームレスな育成・強化に向け、JARA が担う役割の範囲についてどう考えるか。また、選手の所属団体や指導者との連携をどう図っていくべきか。

各コーチとの連携は図れているがそもそもの絶対数が少ない。

各所属団体、指導者との連携については東京大会以降は改善が図られたが十分とは言えない団体もある。

大学カテゴリーは早期に一体となった取り組みが必要。

3. 選手強化に必要な環境整備について

(イ) 競技力強化のための日本式メソッド（トレーニング・プログラム、技術・戦術）の確立に向け、JARA 内にどのような体制を整備する必要があるか。

十分な体制整備が必要。

シニアと次世代は分業するべきである。

シニアは短期であるが奥が深い。次世代は多くの可能性を植え付ける必要があり幅広い。

外国人コーチ依存型は継承が難しい。

3. 選手強化に必要な環境整備について

(ウ) 海の森水上競技場や戸田ボートコースの利用実態やニーズを踏まえ、トレーニング拠点（国内外）に求められる機能や設備。

戸田のトレーニング環境は残すべき。

海の森はオーストラリアのようにレースなどで活用、強化拠点は別が望ましい。

海外拠点は欧州で1拠点は必ず必要。受け入れ先のサポートは手厚い。

コスト面や利便性。